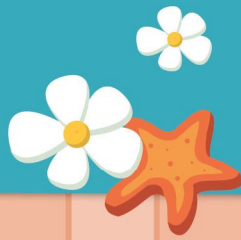


S.K.I.P

Strategies with Kids | Information for Parents



JAP.SAFETY.2013

## 子供の安全

子供は、いたずらしているつもりはなくても危険を冒すことがあります。

自分の周りのことを発見していく中で、子供たちは安全についても学ぶ必要があります。

「『棒は外で遊ぶもの。家の中ではダメ』などの基本的なルールを決めておきましょう。」

## 子供の安全を守る

好奇心が発達する年齢になると、手当たり次第に物に触る、口に入れる、あらゆる所によじ登る、ドアの開け閉めをするなど、子供の安全を守るのも一苦労です。

しかし、成長の過程において子供は手探りで物事を学びます。

子供たちがこの時期を思う存分に楽しめるよう、安全な環境を作ってあげましょう。

子供が危険を冒した時、お尻を叩いても子供には何が悪いのかわかりません。

それよりも、周囲の環境を安全に保ち、危険からどのように身を守るかを教えましょう。

「お風呂や飲み物、料理など、熱いものについて教えましょう」

## 役立つこと

「ある日、娘のルースがいなくなりました。

お隣りへ遊びに行っていたのです。

私たちは、どこに行ったのかわからなくて大騒ぎでした。どれほど悪いことをしたのかわからせるために、帰ってきらお尻を叩いてやろうと思いました。

戻ってきた娘は、『お隣りのお友達に会いたかったの』と言いました。そこで、ひとまず子供部屋に行かせて、お互いに頭を冷やしてから、じっくりと話し合いました。娘は自分がいけないことをしたとは思ってもいなかったようです」

- ハイハイやよちよち歩きを始め、何でも口に入れるようになってきたら、子供の手の届く範囲にある物を見直してみます。
- 壊されたら困る物は高い所に置き、窒息の原因となりやすい小さな物が落ちていないかどうか常に気をつけましょう。
- 子供の年齢に適したおもちゃを与えましょう。
- 細かい部品の取り外しができるものや、子供がなめたりかんだりすると壊れるものには特に注意します。
- 家庭内にある化学薬品、有害物質、医薬品などは高い所に置くか、子供には開けられない戸棚にしまえます。
- 時間をかけて安全な行動を教えましょう。
- してはいけないことをわかりやすく説明し、安全な方法を実際にやって見せます。
- 安全に関する注意は、気長に何度も繰り返して行いましょう。
- バケツを使い終わったら、中に残っている水はすべて捨てましょう。
- 料理中は奥のコンロに鍋をかけ、子供の手が届かない方向に持ち手を向けます。あるいは、コンロやレンジの周りに保護柵をつけましょう。

小さな子供にとって危険な階段や部屋の入口にはゲートをつけましょう。



S.K.I.P

skip.org.nz  
facebook.com/SKIPcommunity

- 本棚などは壁に固定します。
- ライターやマッチは子供が見つけられない場所に隠します。
- 万一、ライターやマッチを見つけたら、すぐに大人に渡すよう教えます。
- 電化製品の電源を抜き、コード類はまとめます。
- 暖炉や暖房器具の周りには保護柵をつけます。

「成長の過程において子供は手探りで物事を学びます。そのために安全な環境を作ってあげましょう」

「子供がネコをぶつたら、その手を取ってネコを優しくなでて見せ、『優しくしようね』と教えます」



S.K.I.P

[skip.org.nz](http://skip.org.nz)  
[facebook.com/SKIPcommunity](https://facebook.com/SKIPcommunity)

## 交通安全

- 子供が先に行ってしまうないように手をつなぎます。
- 手がふさがっている時は、かばんや着衣につかませましょう。
- お手本を見せましょう。
- 安全な場所を選んで道路を渡り、なぜそうしたかを説明します。
- 安全に渡れる場所はどこか、子供たちに質問します。
- 車の行き来を確認するために、どこで止まればいいのかを説明します。
- 子供が一人で先に行ってしまったたり、道路に出たりした場合は、まずその安全を確保します。
- その行為によってどんなに驚いたかを理解させ、どうすべきかを教えます。
- チャイルドシートに座る理由を教えます。
- チャイルドシートに座るのが楽しくなるように、シールをつけたり、車内で遊べるおもちゃを渡したりしてみましょう。
- 運転中にルームミラーでお互いを確認できるようにしましょう。
- いい子にしていたらほめましょう。
- シートベルトを着用するまでは車を発進させません。
- 子供がシートベルトを外してしまったら停車します。
- シートベルトをしっかりと着用しない限り、運転しないと説明しましょう。
- 長時間のドライブでは、ゲームや音楽で子供の気分を紛らわせましょう。
- 長時間のドライブは子供が寝入る時間を見計らって計画します。
- あるいは、子供が寝ぼけている早朝でもよいでしょう。
- チャイルドシートは、ルームミラーで確認しやすい場所に取り付けます。
- 子供の世話をしなければならぬ時はいったん停車しましょう。

「息子は横断歩道のボタンを押すのが大好きです」

「時間をかけて安全な行動を教えましょう」

「2歳半の息子にドアをボタンと閉めないように教えようと思いました」。



S.K.I.P

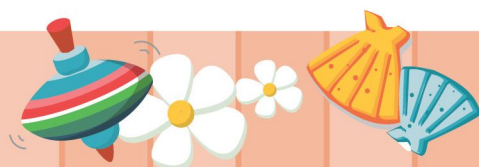
skip.org.nz  
facebook.com/SKIPcommunity

でも、『指を挟むと危ないから』と言っても、まったく理解していませんでした。

そこで、インゲンを挟んでドアを閉め、どんなことになるかを見せてから、『お指がこんな風になっちゃうよ』と説明しました。

それを見た息子は驚いて、ドアをボタンと閉めないようになりました。それどころか、他の子供にも注意するようになったのです。

ただし、数日後にはバナナを挟んでドアを閉める実験をしていましたけれどね・・・」



S.K.I.P

[skip.org.nz](http://skip.org.nz)  
[facebook.com/SKIPcommunity](https://facebook.com/SKIPcommunity)

Skipは前向きな子育てを応援しています。

詳しくは : [www.skip.org.nz](http://www.skip.org.nz)

電子メール : [info@skip.org.nz](mailto:info@skip.org.nz) 電話 : 04 916 3300

子育ての支援団体に関する情報は、[www.familyservices.govt.nz/directory](http://www.familyservices.govt.nz/directory)

(全国案内) をご覧ください。



S.K.I.P

[skip.org.nz](http://skip.org.nz)  
[facebook.com/SKIPcommunity](https://facebook.com/SKIPcommunity)